

令和元年度第2回京都府看護師等確保対策推進協議会 協議概要

1 開催日時 令和2年1月16日(木) 午前10時～11時30分

2 開催場所 京都ガーデンパレス「祇園」
(京都市上京区烏丸通下長者町上ル龍前町605番地)

3 出席委員 12名

神田委員、中村委員、石丸委員、中島委員、林委員、藤原委員、
中田委員、武田委員、濱戸委員、滝下委員(代理)、池本委員、
渡邊委員(座長)

欠席：三木委員、萩本委員

4 協議概要

●…委員からの意見 ⇒…事務局の回答

○報告事項

看護職員需給推計策定の経過について

<報告事項についての主な意見>

●少子化が進む中で新規就業者数(新卒者)が増加する見通しであるのはなぜか。

⇒新たに養成校が増えてきており、新規就業者はその分増加すると想定している。

●養成校の定員割れはないと考えているか。

⇒大きく定員割れするというのはこれまで聞いていない。

●二交代の中でも16時間以上の変則二交代と12時間程度の二交代では勤務状況が異なる部分があり、勤務間インターバルなどに影響を与えるので今後、調査することがあれば反映してほしい。

●保健所・市町村の保健師等はあまり増やす必要がないのか。

⇒当面、現状より大きく増加しないという前提で推計している。

●供給推計における離職率について、2022年以降10.8%の理由は。

⇒京都府ナースセンター調査において過去に10.9%の離職率を達成しており、今後の離職防止に関する事業を充実していく中で10.8%の離職率を達成していきたいと考えている。

●再就業者数はどのように算出しているか。

⇒衛生行政報告例における「従事期間1年未満」の「再就業」「転職」「その他」の合算した値を「総数」で除した値(再就業割合)に、「各年の従事者届等補正後推計値」を乗じて算出。

○協議事項

(1) 働き方改革を踏まえた2025年の需給推計について

(2) 2025年に向けた看護職確保の施策について

<協議事項についての主な意見>

- 京都府の状況を含めた緻密な推計となっており、目標値として良いと思う。現場では、医療需要や働く看護師数が様々な要素で変わっていくが、その中で地域医療構想によりバランス良く医療体制が整備され、それに即した看護師が適切に配置されることが大事。その結果、医療の提供量が医療提供側、住民側の双方の肌感覚にマッチすれば意味があると思う。
⇒働き方改革の進捗状況に合わせて今後も適宜調査を行い、推計値の補正等を検討してまいりたい。
 - 育成した人材が地元に残るとは限らず、府県ごとに推計するのは難しさがある。推計値が出たからこれで良いと決めつけるのは危険。
 - 勤務環境の改善に向けては、実効性のあるICT等の活用が必要と考える。
⇒医療従事者全体の話として受け止め対応してまいりたい。
勤務環境改善が進むと、看護師の必要度合いも変わってくるので、委員の御意見を頂きながら今回できなかった看護補助者や(二交代の場合の)勤務間インターバル調査などを含めて、引き続き京都府の実態調査を行ってまいりたい。
 - 今後の供給について看護学校及び連絡協議会の中でも共有していく。
 - 卒業者はしっかり府内で就職するよう、また定員割れをしないよう指導していく必要があると感じている。
 - 新カリキュラムが始まりICTの活用が求められる中、学校ではWi-Fiの整備やタブレット端末の購入が必要となり財政的支援等を頂きたい。
 - 新卒者で訪問看護をしたいという学生が増えてきており、「新卒訪問看護師育成プログラム」は魅力的。今後も卒業者に対しての継続的な教育のプログラムを考えていければと思う。
 - 教育の段階から回復期、慢性期、在宅を担う人員の需要に対応する教育を進めてほしい。
 - 訪問看護ではICTの活用として電子カルテの導入や事務職員の養成により、残業が30分程度短縮され、業務の効率化が図れてきた。
 - 高齢化が進んでおり、年代に合わせた働き方を工夫するなどプラチナナースなどの確保・定着に向けた支援が必要。
 - 看護師の働き方には、看護助手の充足度も大きく影響する。
 - タスクシフトを進めるため当会では看護助手等の無資格者を集める努力をしているが、なり手がおらず、今後確保に向けた議論をしていく必要があると考える。
- (事務局より)2025年に向けて府が目標とする推計値については、「府独自推計(シナリオ①42,337人、シナリオ②42,512人、シナリオ③45,066人)」が適切と考えるがいかがか。
(各委員)異論なし。

<今後の予定>

会議内容及び委員様からの御意見を整理・検討し2025年に向けた看護師等の確保に向けた施策を展開していく。